

**味の素(株)・ベトナム味の素社、
ベトナム社会主義共和国／キャッサバ栽培における再生型農業実証
事業が、経済産業省の令和6年度補正グローバルサウス未来志向型
共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）に採択
～キャッサバ栽培の生産性向上とGHG排出量の低減を通じて、
持続可能な農業の実現とGXの推進に貢献～**

味の素株式会社（社長：中村 茂雄、本社：東京都中央区）は、ベトナム味の素社とともに、2026年2月8日、ベトナム社会主義共和国／キャッサバ栽培における再生型農業実証事業が、経済産業省の令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）に採択されたことをお知らせします。

この度、採択された事業は、ベトナム社会主義共和国における、キャッサバ栽培の生産性向上および農家所得の増加を図るとともに、温室効果ガス（GHG）排出量の低減を同時に実現する再生型農業の実証を目的としています。

* 令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）特設 HP
<https://gs-hojo-web-fspoc.jp/index.html>

キャッサバは、味の素グループが生産するうま味調味料の主要原料の一つであり、安定的かつ持続可能な調達が重要な農作物です。一方、ベトナムにおけるキャッサバ栽培は、伝統的な農法が中心であることから、収量の低さ、病害虫被害、化学肥料への依存、農家所得の伸び悩みといった課題を抱えています。また、化学肥料の使用はGHG排出の要因の一つであり、農業分野におけるGX（グリーントランスフォーメーション）の推進が求められています。

本実証事業では、当社およびベトナム味の素社が中心となり、ベトナム農業環境省傘下の農業研究センターと連携し、以下を組み合わせたキャッサバ「栽培パッケージ」を農家に提供します。

- ・ 病害虫耐性を有する新品種キャッサバの導入
- ・ 味の素グループが開発したアミノ酸副生物を活用した肥料の提供（化学肥料の代替）
- ・ 土壌準備や灌漑など、農法改善に関する技術指導
- ・ スマートフォンアプリを活用した、農家と専門家間の技術情報交換プラットフォーム

これらを農家に提供することで、単位面積当たりのキャッサバの収量向上と、単位収量当たりのGHG排出量の低減を実証します。

本事業を通じて得られる知見は栽培ハンドブックとして体系化し、将来的にはベトナム国内におけるキャッサバ栽培のデファクトスタンダード（事実上の標準）となることを目指します。さらに、本モデルを他国へ展開



ベトナムの農園におけるキャッサバの生育比較

中央より左側：再生型農業で実証する農法・品種のキャッサバ

中央より右側：通常の農法・品種のキャッサバ

することで、グローバルサウス地域における持続可能な農業の普及と、日本の高度な農業関連技術の海外展開にも貢献していきます。

当社は、環境および社会課題に配慮した持続可能な農業の普及を通じて、アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献するという当社のパーパスの実現を目指します。

味の素株式会社・味の素グループの詳細は[味の素株式会社 ~Eat Well, Live Well.~](#)

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先：[Pr_media](#)